

学位論文審査の要旨

論文提出者	高木 あすか
論文審査委員	(主査) 朝日大学歯学部 教授 北井 則行 (副査) 朝日大学歯学部 教授 藤原 周 (副査) 朝日大学歯学部 教授 裕 哲崇
論文題目	成人における多方位口唇閉鎖力と口唇三次元形態との関係
論文審査の要旨	<p>本論文は、直線型の側貌を呈する成人を対象として、8方向からの口唇閉鎖力を測定し、安静時の顔軟組織形態を三次元的に記録して、多方位口唇閉鎖力と口唇三次元形態との関連を検討したものである。</p> <p>直線型の側貌を呈し、矯正歯科治療、顔の外傷および外科的手術の既往がない成人23名を被験者とし、口唇閉鎖力について、多方位口唇閉鎖力測定装置を用いて上下、左右および斜め45度方向からの口唇閉鎖力を測定した。</p> <p>また、非接触型三次元デジタルカメラを用いて安静時の三次元顔画像を撮影した。得られた三次元顔画像データを用いて、口唇幅、上唇高さ、下唇高さ、上唇深さ、および下唇深さを定義した。また、左右側について、口唇幅、上唇深さ、下唇深さ、鼻下点と口角点を結ぶ直線距離（上唇直線距離）、曲線距離（上唇曲線距離）、鼻下点と口角点を結ぶ曲線と赤唇上縁で囲まれる表面積（上唇表面積）、オトガイ唇溝と口角点を結ぶ直線距離（下唇直線距離）、曲線距離（下唇曲線距離）およびオトガイ唇溝と口角点を結ぶ曲線と赤唇下縁で囲まれる表面積（下唇表面積）を定義した。多方位口唇閉鎖力と口唇三次元形態との間の相関を求めた。</p> <p>その結果、直線型の側貌を呈する成人において、上唇については、口唇閉鎖力と、上唇の幅、高さ、深さ、上唇直線距離、上唇曲線距離および上唇表面積との間に、有意な正の相関を認めた。下唇については、口唇閉鎖力と、下唇の幅、高さ、深さ、下唇直線距離、下唇曲線距離および下唇表面積との間に、有意な相関を認めなかった。</p> <p>以上の結果から、口唇閉鎖力は、上唇の三次元形態と関連し、下唇の三次元形態とは関連しないことが示された。矯正歯科臨床において、上唇形態を三次元的に評価することは、それに対応する口唇閉鎖力を把握する一助となり、治療計画の立案や術後の安定性の評価を行う際に有用であることが示唆された。</p> <p>本論文は、多方位口唇閉鎖力と口唇三次元形態との関係を明らかにしたもので、歯科矯正学分野における診断学および治療学の発展に貢献できると考えられる。よって、審査委員は本論文を博士（歯学）の学位を授与するに値するものと判断した。</p>